

海外生活 レポート 51



ワットドンパラン(寺院)にて、僧侶のダメックさんと、「ぜひラオスの文化を日本に広めてください」と半日境内を案内してくださいました。

金子 ちひろさん

千葉県我孫子市出身

JICA青年海外協力隊員として、ラオス人民民主共和国(以下ラオス) 首都ヴィエンチャンに赴任。

任期:2022年8月~2024年3月

サバーイディー!

こんにちは!ラオスの金子です。昨年度まで川崎市立臨港中学校で働いていました。現在はJICA青年海外協力隊員として、ラオスの『エコヘルス教育』の推進を目的に「ラオス国立大学」に派遣されています。エコヘルス教育は、日本の学校保健教育、保健体育、理科や社会などの教科教育、環境教育を総合的に取り入れ、「国家の発展と自然生態系、国民の健康を国民自身が考え、行動を選択していくこと」を目指した教科です。現在はラオス国内の4つの教員養成学校を回り、授業実践のための基盤作りをしています。

ラオスだけのSDGs:18

環境問題の解決を目標に含む国連の定めた『SDGs』には、達成すべきゴールが全部で17項目ありますが、実はラオスには「18番目のゴール」があります。

まずはラオスをご紹介します。面積は日本の本州とほぼ同じで、東西をベトナムとタイ、ミャンマーに挟まれた東南アジア唯一の内陸国です。現在は国民の約60%が農業(注2)に従事しています。国土の約70%が深い森であるラオスは、第二次世界大戦やその後のベトナム戦争や内戦が続いた影響から1964年~1975年までに50万回以上、200万トンもの爆撃を受けました。ラオス国内の森林や農地には、現在もまだ当時の不発弾が約8,000万個残っていて、これらが幼い子どもや地域の農業従事者の手足や命を奪い、戦後の発展の妨げになっています(注3)。



各地に大小たくさん寺院があり、とにかく豪華!

民の半分が高校へ進学せず、大学受験もしないので、「進学できなかった=落ちこぼれ」という感じはなく、家で農業や機織り、民族衣装の仕立て、総菜屋、土木工事、会社に就職したり、起業したり、一度出家して僧侶になるなどして、各自の路を歩んでいます。20歳頃には、すでにそれぞれの路で立派に稼ぐプロフェッショナル、という人も少なくありません。

ある日、市場のおばちゃんに自分のラオ語が通じず、欲しい物をメモして行ったら「私は字が読めないのよ」と言われたり、宿で声を掛けてくれたおじさんに「日本人なのにラオ語の文字が綺麗だな。オレなんてラオ語書けないぞ~ワツハツハ」と言われたりした時は、とても驚きました。確かに美味しい惣菜を売るには料理の腕やお客さんとの関わり、庭師の仕事をするには植物を見る目や感覚など、文字より大切なこともあるのね、と衝撃を受けました。

それぞれの人生を歩んでいるラオスの人達と接するたび、「人生の選択肢」について考えています。

(注5)2020年度教育スポーツ省

ラオス国立大学

私の配属先であるラオス国立大学は、首都ヴィエンチャンにあるラオス最大の総合大学です。大学では英語や中国語の指導が熱心で、学科によってはすべての授業で英語を使っています。ヴィエンチャンのカフェには外国人のお客さんが多いこともあって、店員のほとんどは英語での接客ができ、日本よりも英語を聞く機会が多いです。

大学構内には『ラオス日本センター (LJI)』があり、日本語や日本文化を教える講座、日本への留学案内システムなどがあります。また、経済学部等で使われている簿記の教科書は、川崎商工会議所が経済交流で作成したものです(注6)。ラオス国立大学では、様々な国から支援を受け、諸外国が身近な存在であるラオスが川崎や日本とも深い関わりを持っていることが感じられます。



ラオス国立大学は自然がいっぱい

(注6)川崎商工会議所は、2012年にラオス商工会議所と協力協定を締結し、ラオス国内での簿記教育の普及に向けて、ラオ語によるテキストの作成や人材育成支援をおこなってきた。

ポツカンマイ ພິບກັນໃໝ່/また会いましょう

今回は「家族や仲間との、のんびりした食事の時間が大好きで、やさしくかわいいラオス人」については話さきれませんでした。豊かで誰一人取り残されない、やさしさの国ラオスに興味を持っていただけなら嬉しいです。それでは、ポツカンマイ!

サバーイディー、ニープン!

ສະບາຍດີ, ຍີ່ປຸ່ນ! (こんにちは、日本!)

ヴィエンチャンにある「MAG UXO(注1)情報センター」

(注1)ラオス内戦時代に投下された不発弾や不発地雷の処理を行っている組織



赤い点は、クラスター爆弾が投下され、まだ不発弾が残っている場所。



クラスター爆弾は、現地の植物ポンピーの果実(左)にそっくり。右の文字が書いてある方が不発弾(処理済)。

そこでラオス政府は不発弾問題を取り上げ、SDGsの独自の目標として「ゴール18: Lives safe from UXO(注4)」を掲げました。

(注2) GraphToChart「ラオス人民民主共和国の農業従事者の雇用割合(推移と比較グラフ)」より



(注3) JICA「不発弾除去組織における管理能力強化プロジェクト」のサイトを参照



(注4) Unexploded Ordnance=不発弾

ラオスの学校教育

ラオスの義務教育は小学校のみで就学率は約90%、進級試験と留年の制度があるので、同じクラスに9歳から12歳の生徒がいるなど、年齢はバラバラです。実はラオスには50の民族が住んでいて、それぞれの言葉や文字をもっています。そのため、山岳地方に住む子どもたちは、小学校で初めてラオ語の読み書きを学ぶことになり、授業に追いつかなくて留年したり、進学を諦めたりする子も多いようです。

国が不発弾や感染症、生活習慣病から身を守るためにポスターや絵本を作っても、文字が読めない子やそもそも学校に行っていない子もいます。そんなラオスだからこそ「国民が健康と環境について考えるために初等教育でのエコヘルス教育を」と国が決定したことに、大きな意義と使命感を感じます。

進学→選択肢増加→幸せ?

高校進学率は約50%、大学進学率は17%(注5)のラオスですが、私が日本と違うなと感じているのは「進学しなかった場合の進路」です。国

INFORMATION



ラオス人民民主共和国

面積 240,000km²
人口 約733.8万人
首都 ヴィエンチャン
言語 ラオス語(ラオ語)